

きょうも おもてなし日和



Vol.20 超高齢化時代を生きる工夫

れたところなのに申し訳ないようにも思います。かと思えば、優先席に
なんの術(てら)いもなく座って、
スマホをいじっている人もいます。

優先席にみる 高齢者の権利と主張

一概に、良いとか悪いとか言えない
状況もあります。

数年前ですが、成田空港で仕事があ
った帰りのリムジンバスの中での
ことです。最前列には「優先席」と
書かれたシートカバーが掛けられた
席がありました。空いていた車内で
中ほどの席に座り、ぼーっと外を眺
めていると、次の停留所に高齢の男
の人が待っているのが見えました。

その人は乗り込むや否や、最前列
の席に座っていた人に向かって、「こ

年を重ねることは悪いことでは
ないですが、なぜか肩身の
狭い思いをすることがあります。

年を取ることは、恥ずかしいこと
でしょうか、あるいは迷惑なこと
でしょうか。日本はすでに、超高齢化
の時代に突入しています。

若い男性が多い？ 高齢者に席を譲る行為

先日、母と話しているとき、「最近
の人は親切で、電車の中ですぐに
席を譲ってくれるんだよ。特に若い
男の人は譲ってくれる」と、嬉しそ
うに話す様子が印象に残りました。

譲られたらどうするの？と尋ねる

これは優先席です。どいてください
と大きな声で、そして怖い顔で詰問
調に話す姿になりました。

車内にいた数名がびつくりして、
手を止めて前方での出来事に注目し
ています。こんなに空いているんだ
から他の席に座ればいいのか、と思
いましたが、優先席に何が何でも
座りたいのか、あるいは健常者が
座っていることが面白くないのか、
引く気配はありません。

次の瞬間、「ごめんなさい、気が
つきませんでした」と、想定外の謝
罪の言葉が聞こえてきました。声
が大きいので会話が筒抜けです。謝
ったのは意外にも、大きな声で席の移
動を要求した男性のほうでした。先
に座っていた健常者に見えた人は、
実は耳が聞こえない人だったよう

と、「お礼を言ってから座らせても
らってるよ、ありがたいと思ってる」
と。

私も時折、乗り合わせた車内で高
齢の人に席を譲る人を見かけること
があります。躊躇(ちゆうちょ)なく、
スマートに譲る姿は自然でいいなあ
と思います。言われてみると確かに、
譲る行動は若い男性が多いかもしれ
ません。一番体力がありそうだと
思われているし、相対的にそうなの
かもしれません。

近くに高齢の人が立っているは、
おいそれとゆっくり座っていること
もできないのでしょうか。周りの視線
も気になるでしょうし、せつかく座

で、その後しばらく謝る様子があり
ました。

外から見てすぐにわかる、例えば
高齢者とか赤ちゃん連れ、骨折して
いる人のような交通弱者もいれば、
わからない内部障がい(交通弱者も
いるんですね。勝手な、一方的な思
い込みで他者を咎(とが)めるよう
なことは、厳に慎まなければなりま
せん。

高齢者だから、すべて許されると
いうわけでもありません。自己の権
利ばかりを主張するのでは、摩擦は
大きくなります。

はっきりと意思表示し、 摩擦を避けるアメリカ

さらに昔の話で恐縮ですが、
ニューヨークに住んでいたときの話

です。1996年から1999年まで
の3年間、当時はジュリアーニ氏が
市長で、治安がかなり改善された時
期でした。

マンハッタンでの移動はバスが便
利でした。もちろん有名なイエロー
キャブにも乗りますが、夕方のラッ
シュにハマるとメーターだけが動い
て、車はうんともすんとも動かない
こともありました。

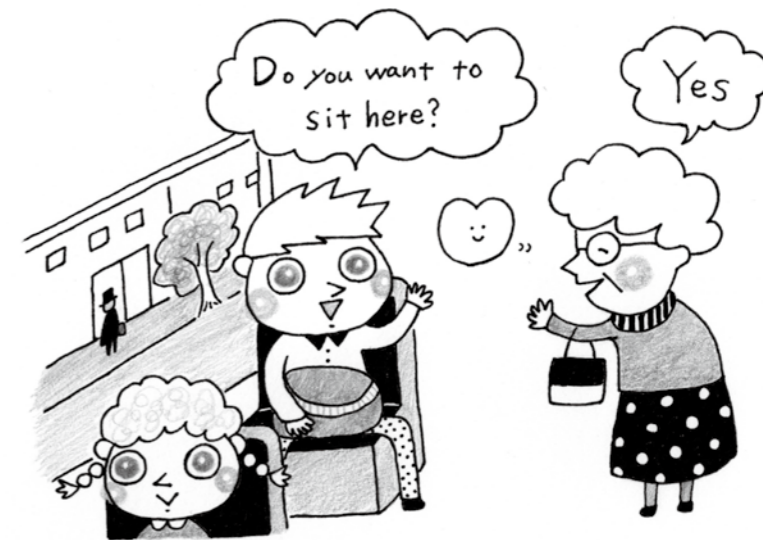
バスの乗り方も、バスの中での
振る舞い方も、3年住むなかで
見よう見まねで学びました。最も
「へえーっ、そうすればいいのか」
と思ったことが、席の譲り方です。

はっきり聞くのです。すでに座っ
ている人が立っている人に、「この
席に座りたい？ Do you want to
sit here?」、本当にこう聞いていま
した。

すると、YesであればOK, I give
up this seat. (OK、ではどうぞ)
と言って席を立ち、No, thank you.
I'm getting off at the next stop,
thanks. (いいえ、結構です。次で
降りますから)という返事であら
ば、そのまま座っています。Yesで
もNoでも後腐れなく、です。

実に合理的です。空気を読むとか、
流れで、のような曖昧さで遠慮した
りイライラしたりすることがなく、
お互い「良き人」でその場にいら
れます。

アメリカらしいと言えば、アメリ
カらしいはつきりさ、です。言葉に
出して意思表示することで、無用な
摩擦を避けているのでしょうか。情緒



イラスト★ささきさとみ (http://blog.goo.ne.jp/satomi343)

はありません。が、会話は弾みます。

「今日は仕事が忙しくていつもよ
り遅いバスに乗ることになったのだ
けど、あなたのような親切な人に
出会えて最高にハッピーな1日にな
ったわ。ありがとう。おやすみなさい」

このようなセリフを言いながら降
りていくのです。こんなふうに、感
謝を言葉にできるきっかけが席の譲
り合いから生まれていました。

ぼーっと生きないカギは 日々のときめきにあり!

日本は、すでに超高齢化時代です。
3人に1人が65歳以上です。総人
口に占める割合は27.7%で、世界
最高水準です。世界初の、まだ誰も
経験したことのない状況が私たちを
待っています。人口は今後徐々に
減っていくのですが、高齢化率は減
らない、ますます増す見込みです。

誰もが平等に経験する加齢を、前
向きに受け入れて生きていくことが
できるようにしたいと思います。個
人的にも、社会的にも、です。

この超高齢化時代を楽しむキー
ワードは、「きょうよう」と「きよ
ういく」だと言われます。「教養と
教育」ではありません。「今日、用
事がある」と「今日、行くところ
がある」です。何も刺激がないと、
ぼーっと生きてしまいます。

そして、「第3の人」の存在も大
きいと感じはじめています。もう1
人、非日常を感じさせてくれる人
との関わりは、刺激と活性化には欠
かせないように思います。家族以外
の誰か、それが職場の人でも、お
店の人でも、全く知らない人でも
いいのです。席を譲ってくれた人
でも。

ちよっとときめく、いつもと違
う回路が働く、それが大事です。



川崎 美紀 (かわさき・みき) オフィスリバー研修講師 <http://www.officeriver.biz>

国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年JALアカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアディベロップメントアドバイザー(CDA)の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当。